

## 平成19年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	「健康保養型観光ビジネス教育プログラムの開発と人材育成」		
法人名	学校法人 南星学園		
学校名	サイ・テク・カレッジ・那覇		
代表者	理事長 遠山 英一	担当者 連絡先	仲尾次嗣明 TEL 098-865-2800
<p>1. 事業の概要</p> <p>①「長寿と健康」をコンセプトとした滞在型観光を推進し、シニア客層の拡大をはかために必要な新しい観光人材育成プログラムを開発し、観光人材教育のモデルを構築した。②沖縄の気候風土と癒しの文化を素材にして、沖縄的なホスピタリティを提供しうる知識とコミュニケーション能力を修得するカリキュラムを開発し実証した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p style="margin-left: 20px;">①目的・重点事項の達成状況</p> <p>1)「長寿と健康」をコンセプトとした滞在型観光推進に必要な観光人材育成プログラムを開発し10名の実践教育を行った。</p> <p>2)講座を通し「健康と長寿」・「癒しの文化」を活用したアロマやハーブ、癒しの空間作りを学び職場で即実践可能な技術を修得させた。</p> <p>3)講演会を開催し、「癒しの伝統文化」と「沖縄観光の特性と課題」をテーマに一般を対象にした講演会を開催し、沖縄観光の今後のビジョンについて啓蒙普及した。</p> <p>4)パソコン技術を活用した企画・広報技術及び仕事と職務管理技術を修得させ、就職後の業務能力とキャリアアップの基礎能力を養成した。</p> <p style="margin-left: 20px;">②事業により得られた成果</p> <p>1)沖縄の自然環境、歴史遺産、音楽芸能、伝統食材・薬草そして沖縄固有の心霊文化を総合した「沖縄型健康保養観光人材育成カリキュラム」を開発した。</p> <p>2)沖縄の歴史文化を学ぶことによって、受講生が沖縄の良さと特性を再発見し、観光客に積極的に伝える意欲と知識を学び、就職意欲が高まった。</p> <p>3)「癒しの伝統文化」と「沖縄観光の特性と課題」をテーマ一般を対象にした講演会を開催し、「沖縄の健康保養型観光」重要性について一般の方への理解が深まった。</p>			

4)アロマトリートメントの実習、ハーブ活用実習で受講生の就職への自信が高まった。

5)受講生10名中、旅行代理店、ハーブ園、アロマサロンへ6名、琉球温熱療法院へ2名、エステサロン(研修生)へ2名の進路が決定した。(平成20年3月3日現在)

### ③今後の活用

開発した「健康保養型観光人材育成カリキュラム」県の商工観光課、沖縄観光コンベンションビューロー、県観光協会、雇用能力開発機構に報告して活用に供する。

### ④次年度以降における課題・展開

- 1)いかに沖縄特有の「健康保養」型のサービスを開発し提供するか、企業と提携した研究が必要である。
- 2)マニュアル化された接遇と沖縄的ホスピタリティをどう調和させるか、現場での実践による検証が必要である。
- 3)受講生の表現力、コミュニケーション能力の実践訓練の強化が必要である。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

(1)調査のねらい

沖縄観光のニーズを見極めて、全体的な教育プログラムへ反映させ、より効果的に専門的な知識及び技術の修得を行なうため、ニーズ調査・実態調査・先進地調査を行なった。

#### ①ニーズ調査

イ)対象(場所):

関西及び関東圏旅行代理店(企画室)本社・支店など大阪・東京近郊の旅行代理店

ロ)方法:

旅行代理店(本社・企画担当者)へ直接聞き取り調査した。

ハ)調査項目:

沖縄観光の企画・パンフレットの作成内容、季節別ニーズの実態(年齢・性別・グループ構成など)、今後の展開予定のキャンペーンやイベントの内容、沖縄県側への観光に対する要望など

#### ②実態調査

イ)対象(場所):

沖縄県南城市及び石垣島における地域観光資源の活用や自治体の取り組みが対象

ロ)方法:

沖縄県南城市の地域活性化プログラムの取り組みに見られる「歴史遺産」と「統合医療」を融合させた観光振興策について担当部署へヒアリング調査を実施した。

ハ) 調査項目:

「健康保養型観光」を展開する上での人材確保、地域資源の活用法、広報活動の取り組みや今後の課題など

### ③先進地調査

イ) 対象(場所)

東京における近代的なスパ・エステの施設概況およびスタッフの有資格状況を調査した。

ロ) 方法:

東京ドームシティにある Spa LaQua の施設概況、サービスの内容を体験及びヒアリング調査した。また、西さがみ地区が取り組む観光振興策について講演会に参加した。

ハ) 調査項目

近代的なスパ・エステ施設での人材の確保及び育成の方法、従業員の持っている資格などの種類、広報活動の内容、今後の取り組みなど

## ②カリキュラムの開発

(1) テーマ

観光人材育成を目的とした教育プログラムを開発した。

(2) 開発経緯

- ① 沖縄県入域観光客数の拡大施策において、リピーターの増加、シニア客層の拡大と滞在型観光の現状調査。
- ② 沖縄の気候風土と癒しの文化の魅力を引き出し、「健康と長寿」をイメージした観光振興を担う人材像の把握
- ③ 沖縄の独自性のある精神文化に基づくホスピタリティにより、満足と生きがいを与える人材育成に必要な教育内容の検討。

以上のことにより、沖縄のもつ開放的な自然環境、温暖な気候風土、歴史遺産・芸能、健康的な食材・食事、薬草などの知識を修得し、アロマ・エステの技術や沖縄的ホスピタリティの実践が出来る教育プログラムを開発する。

(3) 対象

沖縄の観光産業、特に健康保養型観光ビジネスの担い手として、就職を希望する一般人。

(4) 手法

- ① 知識教育として、沖縄の歴史・文化、気候風土、沖縄の食材・食文化、観光英語、ビジネスマナーなどを学ぶカリキュラム。
- ② 健康保養に関連する領域として、基礎医学・栄養学・ストレスマネジメントなどを中心に学ぶカリキュラム。
- ③ アロマ・エステを中心としたリラクゼーションの効果について、知識と技術を学ぶカリキュラム。
- ④ 癒しの空間作りやハーブ実習などを通じて、実践的な技術を身につけるカリキュラム。

ニーズ調査・実態調査・先進地調査の結果を体系的に組み合わせたカリキュラムを作成した。

#### (5)開発内容

①専門知識課程:180時間

沖縄の歴史・文化、沖縄の食材・食文化、沖縄産ハーブ・薬草の利用、(沖縄)観光英語、栄養と健康の科学、アロマ・エステと生体反応など

②専門技術課程:180時間

ホスピタリティと接客マナー演習、沖縄らしい癒しの空間演出、ハーブ栽培技術と活用法、コンピューター演習など

③技術実習課程:120時間

アロマセラピーの実践、アロマサロン実習、プレゼンテーション技法、沖縄観光用パンフレットの作成方法など

総時間数280時間のカリキュラムを開発。健康保養を目的とした観光産業の従事者として必要なスキルを総合的に修得できる教育プログラムの開発。

### ③実証講座

#### (1)テーマ

沖縄県の観光産業界が求める人材育成、特に沖縄型健康保養ビジネスに必要な専門知識・技術を修得する。

#### (2)実証期間

平成19年10月15日(月)～平成20年2月15日(金) 4ヶ月

#### (3)受講者の属性

性別:全員 女性

年齢別:20歳代 3名、30歳代 4名、40歳代 2名、50歳代 1名

#### (4)受講者数

10名

#### (5)場所

専門知識課程:サイ・テク・カレッジ

専門技術課程:サイ・テク・カレッジ、ブリーガーデン、名城農園

技術実習課程:サイ・テク・カレッジ、フォレスト・スタイル、ナチュラル・ハート

#### (6)受講生の反応

①琉球の歴史や文化について学んだ上に、観光英語のスキルアップすることが出来て就職への自信がついた。

②沖縄観光の特徴や魅力について知ることができ、旅行代理店に就職も決まった。

③沖縄の文化や自然環境に根ざした健康保養型観光の将来性を感じさせられた。

④コンピューター操作も修得し、就職への道幅が広まって良かった。

⑤自分自身で沖縄観光用のパンフレットを作成したり、企画書を作ることができ、就職活動に役立った。

⑥アロマセラピーやハーブの利用技術などを学び、今後も継続して勉強していきたいと思う。

⑦沖縄が持っている長寿や健康のイメージを崩さないように県民一人ひとりが取り組んでいかなければ、沖縄観光の振興は厳しい。沖縄観光産業の一員として働けるように頑張る。

### ④その他

今回の事業では、沖縄の基幹産業の一つである観光産業、特に「健康保養型観光」を中心としたビジネスの人材育成に焦点を当てている。沖縄の歴史や遺産、文化・芸能の知識だけでなく、健康保養に関連する補完・代替医療といわれる領域も取り入れている。また、知識だけでなく、体験学習的プログラムを実施し、発展性のある技術習得を目指している。ハーブ園での実習やアロマサロンでの実習、癒しの空間作りなど実際に体験することにより得られるノウハウを活用できるようにしている。